

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスはぐっと中野		公表日		2026年 3月 21日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	4	利用人数に応じ安全に活動出来る空間配置を行っている。	活動スペースの使い方を工夫し、安全で使いやすい環境作りを進める。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	3	基準以上の職員配置を意識し安全な支援体制を整えていく。	利用児の状況に応じた職員配置の見直しを継続する。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	活動スペースを分けて子どもが理解しやすい環境作りをしている。	子どもが理解しやすい環境作りをさらに進めていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	日々の清掃と整理整頓を行い清潔で快適な環境作りをしている。	清掃チェックの仕組み作り、より快適な環境作りを心がける。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	必要に応じて静かな場所で過ごせるスペースを確保している。	個別スペースの活用方法を職員間で共有する。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	ミーティングで支援内容の振り返りと改善を行っている。	職員全員が目標設定と振り返りに参加出来る機会を増やしていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	2	保護者アンケートを実施し支援改善に活かしている。	保護者アンケートの回収率向上と活用方法の改善	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	ミーティングで意見共有を行い業務改善案につなげている。	職員の意見をより反映出来るミーティングとなるように工夫する。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	3	第三者評価が実施出来ていない。	外部評価や助言を取り入れる機会を検討する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	外部研修や内部研修を定期的に実施している。	職員研修の計画化と参加機会の拡充	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	2	活動内容を整理し支援プログラムとして共有している。	支援プログラムの整理と見える化を進める。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3	0	日々の観察と保護者情報を基に計画作成している。	アセスメント方法の統一化を図る。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	1	支援計画を職員間で共有し、支援を検討している。	計画作成時の職員参加を促す。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	1	職員間で情報を共有し計画に沿った支援を行っている。	支援計画の共有方法を改善する。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	1	日々の観察記録をもとに支援内容を検討している。	アセスメント記録の充実を図る。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	0	ガイドラインをふまえて計画の作成を行っている。	ガイドラインを理解してもらうための研修会の実施	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	2	チームで活動内容を検討し、実施している。	活動内容の多様化	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1	季節の活動や身体を使った遊びを取り入れています。	活動内容が固定化しないように工夫する。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	0	個別活動と集団活動を組み合わせている。	個別活動と集団活動のバランスを見直す。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	支援前に役割と支援内容を確認している。	支援前の打ち合わせの時間を確保。	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	支援後に気づきを共有し支援の改善につなげている。	支援後の振り返りの質の向上。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	支援記録を残して振り返りに活用している。	記録の効率化と共有の仕組み作り。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	0	定期的に支援記録の見直しを行っている。	モニタリングの実施時期の明確化。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	3	1	生活、創作、交流活動などを組み合わせて実施している。	基本活動の理解を深める。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	子どもが選択出来る活動を取り入れる。	自己決定を促す支援方法を検討。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	関係機関会議へ参加し情報共有を行っている。	関係機関連携の機会を増やす。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	医療、学校と連携し情報共有をしている。	医療、学校との連携体制の強化。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	2	送迎時など学校と情報共有を行っている。	学校との情報共有の方法を改善する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1	必要があれば全事業所と情報共有を行っている。	就学前機関との連携強化。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1	必要に応じて支援情報の引き継ぎを行っている。	進路移行時の情報共有体制を整備する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	2	研修や助言を受けて支援に反映している。	児童発達支援センターとの連携機会を増やす。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	4	同一法人内での交流を増やしている。	地域交流活動の機会を増やす。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	0	必要に応じて地域会議へ参加している。	地域会議への参加機会を検討。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	送迎時や連絡帳などを使って情報共有している。	保護者との情報共有の方法を改善する。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2	保護者からの相談に応じて助言を行っている。	家族支援プログラムを検討する。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	0	契約時に丁寧な説明をしている。	利用説明資料の見直しを検討する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	保護者の意向を確認し計画に反映している。	保護者の意向を確認する機会を増やすことを検討する。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3	1	支援計画を説明し同意を得ている。	支援計画の説明の仕方を工夫する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0	面談や相談に対応している。	相談対応の体制を整理する。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	3	保護者同士の交流機会を検討する。	保護者同士の交流機会を検討する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	苦情窓口を設けて迅速に対応している。	苦情対応の周知方法を改善する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	SNSや通信で活動情報共有を発信している。	情報発信の頻度向上を検討する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	個人情報管理体制を整えています。	個人情報管理研修の実施を検討する。

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	子どもの特性に応じた伝達方法を工夫している。	意思疎通支援方法の充実を図る
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	地域との関わりを意識した活動を行っている。	地域との交流機会を増やすことを検討する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	各種マニュアルを整備し職員に周知している。	各種マニュアルを定期的に見直す。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	防災訓練やBCPの確認を定期的に行っている。	防災訓練の内容の充実を図る。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	事前に体調や服薬の情報を確認している。	健康管理情報を職員間で共有強化。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	医師の指示書に基づいてアレルギー対応をしている。	アレルギー対応マニュアルを確認する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	安全計画に基づき安全管理を行っている。	安全計画を見直す。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	安全対策を保護者へ説明している。	安全対策の保護者への周知を強化する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	ヒヤリハットを共有し再発防止の検討をしている。	ヒヤリハットの活用方法を検討する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	1	虐待防止研修を行い防止対策を整えています。	虐待防止研修を継続する。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	1	0	身体拘束は基本的に実施せず、現在対象なし。	身体拘束に関する理解を共有する。	